

日本労働年鑑 第24集 1952年版

The Labour Year Book of Japan 1952

第二部 労働運動

第二編 労働組合運動

第九章 平和擁護運動

第七節 日本平和擁護全国会議

平和擁護日本委員会は、ストックホルム・アピールへの署名運動で結集された力を新しい段階へ発展させる方針を討議し、かつイギリスにおける第二回平和擁護世界大会の準備として、一月六日平和擁護全国会議をひらいた。

当面の活動に関する決議

平和投票を継続して、もっと精力的に行い、四、〇〇〇万票の目標の達成を期すると同時に、平和をまもるにはどうするかということを中心とする「平和の懇談会」をどしどし開いて、平和戦線を広げ、且つ強めて闘う戦線にする。

組織強化に関する決議

一万の平和委員会をつくり、一、〇〇〇万人を組織することを当面の目標にして、工場、経営、農村、町内を基礎にあらゆるところに平和委員会を組織する。

各地代表の報告に基く決議

- 1、平和投票デーを一二月月上旬にもつ。
- 2、世界委員会代表が日本を訪問するよう依頼する。
- 3、平和の標語を募集する。
- 4、全国会議の名で各政党へ平和投票運動に協力を申入れる。
- 6、日本委員会がプラーグ・アピールを採択するよう要請する。
- 6、赤松俊子女史の画展を企画する。
- 7、福井、徳島両県の活動の欠陥を調査して進展を促す。
- 8、平和戦士を表彰する。

以上の実行を日本委員会に托す。

第二回平和擁護世界大会へ送るメッセージ

六〇〇万の平和署名者の背後にいる数千万の平和を愛する日本人を代表してここに参集したわれわれは第二回平和擁護世界大会が恒久平和へと諸国民をみちびくわれわれの運動の大なる前進の契機となることを期待し、次のことが平和を愛する日本人の意志として大会へ反映することを希望する。

われわれは六〇〇万の日本人がストックホルム・アピールを支持し平和をまもる決意を表明したことを第二回世界大会へ報告する。

いよいよ増大する新しい戦争の脅威が平和擁護者に課している重大任務、とくに隣国朝鮮の戦争が日本の平和擁護者に重大な任務を与えていることをわれわれは痛感し、

世界の全平和擁護者と固く手を握って戦争防止、恒久平和の確立のために闘い、平和のための団結をさらに拡大し強固にすることを誓う。

われわれは、原子兵器の禁止と一切の軍備の縮小、およびこれを実現するための国際管理を要求し、侵略と諸民族の内政に関する外国の武力干渉に反対し、民族自決の原則を基礎とする朝鮮戦争の平和的解決を要求し、戦争宣伝の禁止を要求する。

われわれは武力によって平和をもたらすことができるとは考えず、国連憲章の尊重、五大国を中心とする諸国家間の協力による世界平和の確立を要求する。

われわれは世界の平和を脅かす日本の再武装軍事基地化に反対し、ポツダム宣言に基づく全面講和の即時締結と講和後占領軍の即時撤退を要求する。

われわれは世界の全平和擁護者の一致した行動こそ、戦争挑発者の陰謀をうちくだき、平和はかならず戦争にうち勝つであろうと確信しつつ、第二回平和擁護世界大会のみなさんに竖き握手をもって兄弟の挨拶を送る。

日本労働年鑑 第24集 1952年版

発行 1951年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年6月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1952年版(第24集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
